

千年の森便り No.221

2022.02.25

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

代表 坂本文雄 編集 真鍋昌義

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

2月20日(日)曇

事前の週間予報では2月20日の定例活動日に雪マークが付いていました。

その後、雨マークになったままで前日の夕方から降り始め、家を出るときにはフロントガラスに叩き付ける様な大きな雨粒の音が車内でも聞こえました。集合場所の直売所に到着の頃には予報通りに雨は止み、島へ渡る橋の上からは雨上がりの山から立ち昇る霧が辺りを包み込んで幻想的でした。こんな天気の上、3回目のコロナワクチン接種と重なった方もいたでしょうから参加者は少なく伊藤、鶴沢、坂本、成沢、福島、村野の6名でした。



精鋭6名の集合写真

午前中に懸案だった植生保護柵の設置作業を終え、お昼は島外の広場に移って熱々の味噌汁で体を温めました。食後の休憩時間には会の魅力発信をどうするか、いかに世代交代を進めるかの話題が出ました。

新しい取り組みについてはソロキャンプ場、子どもの遊び場として活用できないか等のアイデアがありましたが、島内で火が使えないこと、ナラ枯れの危険木が多すぎるのがネックとなり、話はいつも行き詰まりになってしまいます。これを打破できる斬新なアイデアはありませんか。(坂本)

○植生保護柵の設置

シカの食害がひどくなるに従い、植生保護柵も順次増設し、現在は7箇所を設置してあります。それぞれ主な保護対象が異なり、照度環境も異なる場所に設けてありますが、増えすぎてちょっと目障りとの声も聞こえます。そうは言っても被害はひどくなる一方で林床にはシカが食べないアセビが一面を覆う場所もあり、被害を防ぐには他の手段もないことから、今年度は新たにほこら山手前の平坦地に設置しました。点在するカシノナガキクイムシの被害木を避けましたが、一部被害木はネット内に残るため伐採せずに自然に枯損するのを待つことにしました。



植生保護柵の設置

久しぶりのネット設置のため、どのような段取りで作業したらスムーズで強固なものになるかしばらく試行錯誤しましたが、調子がでてくるとスピードも上がり、午前中で一通りを設置することができました。L型2辺が20mで、残りが8mと25mの変形平行四辺形で全長73mとなりました。植生保護柵は、支柱を建てネットをかけるだけですが、法線を通し高さをそろえるのはかなり難しく、杭の高さや位置を再々調整してなんとか形にすることができました。この場所は、かつてエビネやコクランの群生が見られましたが、姿を消してから5年以上が経過しています。現時点で植生保護柵を設置して、再生があるのか注意深く見守りたいと思います。(伊藤)





雨上がりの島に向かう



雨上がりの豊英島と豊英湖



キンクロハジロ

○島内の散策



アセビの花



オニシバリの花



コショウノキのつぼみ



カンアオイの花



スハマソウのつぼみ



今年も葉だけのコセリバオウレン

昼食のあと、植生保護柵のネットの裾を固定する作業、センサーカメラのデータ回収などを行いながら島内を散策しました。樹木ではヤブツバキ、アセビの花が見られました。コショウノキは、個体数が少ないのでネットでシカの食害から保護していますが、今回、新たにつぼみをつけた小さな2個体を見つけました。ほかには、落ち葉をよけるとカンアオイの花、緑色から紫色までバラエティーに富んだオニシバリの花、湖岸にはもうすぐ咲きそうなたつぼみを着けたスハマソウを見ることができました。湖岸に降りたついでに、泥だらけになりながらもコセリバオウレンの様子を見に行くと、今年も花はありませんでしたが、小さな葉が残っていることが確認できました。日が差してきた空に向かって立っているナラ枯れの枯死木には、びっしりときのこが出ており、自然の営みを感じました。（福島）



ナラ枯れのコナラにきのこ密生

○センサーカメラに映った動物たち

現在、島内には3台のセンサーカメラが設置されています。月1回の活動日ごとにデータを回収し、必要な場合に電池交換を行っています。今回は、2021年9月20日～2022年2月20日の間に撮影された動物たちを紹介します。



1/22 キョン



1/24 アライグマ



1/24 ニホンジカ 3頭



2/11 雪の中のニホンジカ



1/28 タヌキ



11/24 トラツグミ

ニホンジカ

3台のカメラすべてで撮影頻度が最も高く、最大で4頭（メス3頭+昨年生まれの1頭）が同時に撮影されています。また、発情期に当たる10月には大きな角を持ったオスジカが記録されていました。このオスジカは左の前足を負傷していました。このオスジカの動画は、ちば千年の森をつくる会のYoutubeチャンネルにアップしてあります。

タヌキ

橋の近くに設置されたカメラで、夜間、頻りに橋を渡って島に出入りしているようです。2頭が同時に撮影されることもあります。島に入ってくる時はゆっくりと橋を渡ってきますが、帰りはダッシュで駆け抜けていくことが多いです。なぜでしょう？

ニホンイタチ or ニホンテン

こちらも橋の近くに設置されたカメラで、夜間に撮影されています。橋を渡って島に出入りしているようです。動きが早く、夜間は白黒の撮影となるためイタチかテンかの同定は難しいです。

ニホンザル

9月に橋の近くで記録されています。橋を使って群れで島に移動してくるようです。9月以降の記録はなく、餌を求めての短期の滞在だったようです。

キョン（特定外来生物）

昨年7月から島内で記録されるようになりました。一度に撮影されるのは1頭で、単独で行動しているようです。昼、夜ともに撮影されています。橋の近くには出てきますが、体の大きさからも橋を使って出入りしているわけではないようで、シカと同様に泳いで渡ってきていると思われます。

アライグマ（特定外来生物）

タヌキと同じように、夜間に橋を使って島に出入りしています。記録されているのは毎回1頭で、タヌキよりも島に来る頻度は低いようです。

以下は鳥類です。

キジバト

橋の近くのカメラで頻りに撮影されています。歩道の上が開けていて餌がとりやすいせいでしょうか。2羽が同時に撮影されている場合もあり、島内で営巣している可能性があります。

トビ

橋の近くのカメラで何度か地上に降りているところが撮影されています、動画では枯れ枝をくわえて飛び去る場面があり、繁殖のための巣を作り始めているようです。

シロハラ

橋の近くのカメラで1回撮影されました。ツグミの仲間で冬鳥です。地上で採餌するので、餌を探してカメラの近くにやってきたようです。

トラツグミ

橋の近くのカメラで数回撮影されていました。ツグミの仲間で、国内で繁殖しますが豊英島では冬鳥と思われます。翌年の寅年に合わせて姿を見せてくれたのかも？（福島）

○地元産アピオスの試食

アピオスをご存じでしょうか。

つる性のマメ科植物でも食べるのは豆ではなく地下に出来る小芋です。栄養価の高い健康食品として注目されていますがまだ馴染み深いものではありません。



日本に自生するホドイモの近縁種で北米原産です。

この珍しい芋が集合場所の直売所に並んでいました。

生産者は伊藤会員の知人だそうです。まだ食べた事が無いと言うのでお昼に塩茹でとみそ汁の具にしました。

皆で試食したところ、ジャガイモとサツマイモを合わせたような味との感想でした。

きわめて美味でなくてもこれで健康に役立つなら良い事です。

君津の名産として広まるなら願ったり叶ったりです。

丈夫な蔓草で花も美しいので日よけのグリーンカーテンにも利用できます。

お知らせ

○次回の活動日は 3 月 20 日（日）です。

年間計画ではシカ個体数調査とヒメコマツの測定となっています。

シカ個体数調査は、当日の天気と安全面を考慮して実施を判断します。

ヒメコマツの測定は別の日に実施されますので今回は実施しません。

また、天気と参加メンバーによりますが、ナラ枯れによる枯死木の伐採作業も行いたいと思います。

なお、今後の新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては、予定が変更となるかもしれませんのでご了承ください。活動の際は必ずヘルメットの着用をお願いします。